

# はばプラⅡ 音楽科「つかむ」過程の基本的な流れ

## 学びを深める指導・支援の重要ポイント

### 【興味・関心を高めるために】

- 児童生徒の実態に応じた聴かせ方をしたり、資料の提示の仕方を選択したりする。
- ＜例＞
- ◆めあての設定につながる音源を示す。
- ◆特徴的な部分を聴き取らせる。
- ◆他の部分や曲を比較し聴き取らせる。
- ◆曲名を知らせずに聴かせる。
- ◆写真や実物等、視覚に訴える資料を提示する。等

### 【めあての設定】

- 基本的に題材のスタートにおいては、活動の要素を含んだめあての設定が多くなる。
- ＜例＞
- 「～（曲名）のよさや面白さを見付けよう。」
- 「この曲が表している様子を、～を手がかりに探ろう。」等

### 【音や音楽の特徴を捉えるために】

- 児童生徒及び題材に合わせた活動を選択する。
- ＜例＞
- ◆音楽に合わせて体を動かす。
- ◆感じ取ったことや気付いたことを伝え合う。
- ◆特徴的な部分を取り出して、聴いて確かめる。等

### 【題材の課題の設定】

- 子供たちのイメージと〔共通事項〕を支えに、題材で何を学ぶのかを共有する。
- ＜題材の課題の例＞
- 「（音楽を形づくっている要素）に合わせて～しよう。」
- 「～の音楽に親しみ（音楽を形づくっている要素）を生かして～みよう。」等

### 【振り返りについて】

- 本時の振り返りだけでなく、題材に対する思いや願いをもたせることで、学びの見通しや意欲をもたせる。
- ＜例＞
- 「これからやってみたいことは何か。」
- 「これからどんなことを学んでいきたいか。」等

※「つかむ」過程は、1単位時間全てを使わず、発達段階に応じてそのまま「追求する」過程へ進むことがあります。

## 基本的な流れ

### 1 本時のめあてをつかむ。

- 音や音楽に出会わせ、題材で何を学ぶかをつかむための動機付けを行う。
- 児童生徒がはじめに捉えたイメージや感情を問いかける。
- 本時の大まかな活動の流れや、手がかりとなる音楽を形づくっている要素等を児童生徒につかませるめあてを設定する。

#### 【めあて】

### 2 音や音楽の雰囲気を感じ取り、雰囲気が醸し出す理由を探りながら鑑賞する。

- 児童生徒の気付きを手がかりにして、聴き取ったこと（知覚）と感じ取ったこと（感受）とを教師が音楽を形づくっている要素を基に問いかけながら結び付ける。

### 3 題材の課題をつかむ

- 各自が感じ取ったよさや面白さを音楽を形づくっている要素と関連付け、題材で追求していくことを板書等で焦点化する。

#### 【題材の課題】

＜題材で取り組む大まかな音楽表現＞

- ※1単位時間の中で「追求する」過程へ進むような場合は、「1. 本時のめあてをつかむ」段階で課題を提示することもある。
- 児童生徒の気付きと関連付けながら、課題解決に向けての大まかな見通しを確認させる。

### 4 学習のまとめをし、学びを振り返る。

- 音や音楽のよさや面白さと、音楽を形づくっている要素との関わりを確認し、言葉や板書でまとめる。

#### 学習のまとめ

- 鑑賞して気付いたことや感じたこと、分かったことや「題材で何を学びたいか」を問いかける。

## 振り返り

## 個別最適な学びに関する学習活動

## 協働的な学びに関する学習活動

### 1人1台端末の活用

＜例＞

- ・参考となる音源を紹介する。
- ・楽譜の着目させたい部分をズーム機能で拡大、マーキングする。
- ・情報が掲載されているウェブサイトの紹介する。
- ・教科書会社の動画クリップを紹介する。

＜例＞

デジタル教科書やプレゼンテーションソフト等を活用し、音楽を聴くことと教科書の資料や楽譜等を見ることを同時にできるようにする。

#### 【一斉学習 思考を深める学習】

- 教員用端末等を活用し、児童生徒の状況に応じて部分的に何度も聴きなおしたり、映像を確認したりする。
- プレゼンテーションソフト等を用いて、曲のどの部分を聴いているのかを可視化して確認しながら鑑賞する。

#### 【個に応じた学習】

- 端末を用いて、児童生徒が必要に応じて音楽を再生したり停止させたり、繰り返し聴いたりする。

#### 【個に応じた学習

- 思考を深める学習 発表や話し合い
- 端末やソフトウェア、アプリ等を活用し、曲想と音楽の構造との関わりについて理解したりその音楽の特徴を捉えたりする。

＜例＞

- ・聴き比べたり実際に歌ったりして捉えた音楽の特徴について、自分の考えと他者との考えの共通点や相違点を端末で確認する。
- 他者の意見を参考に自分の考えを広げ、学びを深める。

- 【思考を深める学習 協働での意見整理】
- グループで端末を用い、いくつかの部分に分割された鑑賞曲の音源を聴く。

- 【思考を深める学習 発表や話し合い 協働での意見整理】
- 端末を用い、理解したことや捉えた音楽の特徴を他者と共有し学習を深める。

#### 【学習データの蓄積】

- 端末等へ振り返りの内容を記録する。→自己の学びの確認ができる。

## 教師の指導・支援

### 大型提示装置・教師用端末の活用

- 本時の学習に関連する音源・楽譜等を提示する。

- 着目させたい音楽を形づくっている要素等を共有化・焦点化できるように提示する。

- 聴覚のみでなく、視覚的にも音楽を捉えていくことができるよう、ソフトウェアやアプリなどを活用する。

＜例＞

児童生徒が気になったところや聴き返したいところについて、各自が自分のペースで確認する

＜例＞

- ・音楽の特徴を書いたヒント等を手掛かりに正しい順番を考え、音源を聴きながら並び替える。
- 作曲家が工夫した音楽のよさを感じ取る。

- 大型提示装置により学習計画を提示する。

- 着目させたい音楽を形づくっている要素等を共有化・焦点化できるように提示する。

- 個々のまとめの言葉を提示して紹介する。

# はばプラⅡ 音楽科 「追求する」過程の基本的な流れ

## 学びを深める指導・支援の重要ポイント

### 【指導のポイント】

#### 【常時活動等を充実させるために】

- 題材のねらいにつながる楽しい活動にする。
- <例>
- ◆拍に合わせてリズムリレーを行う。
- ◆限定された音を用いて旋律をつくる。 等

#### 【めあての設定】

- 音楽を形づくっている要素が含まれているめあてを示す。
- <例>
- 「自分たちのイメージに合った～になるように、～(音楽を形づくっている要素)を工夫して試そう。」 等

#### 【思いや意図を膨らませるために】

- 子供たちが表したい思いや意図、音楽表現をワークシート等に記録し可視化させる。
- (「4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫について」参照)

#### 【表現のよさや面白さを共有・共感するために】

- 表現の変容を捉えさせる場を設定する。
- <例>
- ◆中間発表を行う。
- ◆いくつかの取組を意図的に紹介し、全体で試す。
- ◆グループ間で聴き合いアドバイスし合う。 等

#### 【振り返りについて】

- <振り返りの視点の例>
- ◆音楽を形づくっている要素を手がかりに試して、「何ができたか。」
- 「どのように雰囲気が変わったか。」
- ◆友達の表現を聴いて、「どんなことが分かったか。」
- 「生かしてみたいことは何か。」
- ◆次時や次過程に向けて、「どのようなことを試して表現を工夫していきたいか。」 等

## 基本的な流れ

### 1 学習に臨む雰囲気をつくる。

- 本時の学習内容とつながるリズム遊びやハーモニー遊び等の常時活動や、既習曲の演奏等を行わせる。

### 2 本時のめあてをつかむ。

- 前時の学びを紹介したり演奏させたりして、音楽を形づくっている要素と関連付けながらめあてを設定する。

#### 【めあて】

### 3 思いや意図に合った表現をするために、音楽を形づくっている要素と関連付けながら表現を探る。

- 表したい思いや意図を問いかける。
- 思いや意図を基に、音や音楽、言葉を通して伝え合い、様々な表現を試させる。その際、音楽を形づくっている要素とその働きから、音楽の雰囲気が醸し出される理由を問いかける。
- 「なぜそのように工夫したのか(感じたのか)。」など、教師が問いかけながら、児童生徒が聴き取ったこと(知覚)と感じ取ったこと(感受)とを結び付け、児童生徒に意識化させていく。
- 友達の表現の工夫を認め合ったり、鑑賞曲を聴き直したりする場を設定し、児童生徒が表現を工夫する際の手がかりにする。

### 4 学習のまとめをし、学びを振り返る。

- 表現のよさや面白さを、音楽を形づくっている要素と関連付けて確認し、言葉や板書でまとめる。

#### 学習のまとめ

- 表現を試してみて、気付いたことや感じたこと、分かったことを基に、自己の変容を振り返らせる。

## 振り返り

## 個別最適な学びに関する学習活動

## 協働的な学びに関する学習活動

### 1人1台端末の活用

#### <例>

- ・参考となる音源を紹介する。
- ・楽譜の着目させたい部分をズーム機能で拡大、マーキングする。
- ・情報が掲載されているウェブサイトの紹介する。
- ・教科書会社の動画クリップを紹介する。
- ・実際に演奏している児童生徒の手元を大型提示装置に映し出し、正しい運指や奏法等を確認できるようにする。

#### <例>

- ・歌唱の活動で、どこが一番盛り上がる部分なのかを確認することや、声部の役割などをクラス全体で考える際に、児童生徒から出た意見を、書き込み機能を持つ大型提示装置等へ書き込み、色を変えて分類したり、違うアイデアにどんどん入れ替えたり整理したりしながら、歌い方を練っていく。

#### 【発表や話し合い 協働での意見整理】

- 大型提示装置やデジタル教科書等のICT機器を使い、一旦記入したものを消して書き直したり、色を変えたり、保存したりする。
- 試行錯誤が促進されたり、学びの軌跡を振り返ることが可能になったりするなどの効果が期待される。

#### 【一斉学習 個に応じた学習 思考を深める学習】

- アプリやソフトウェア(サウンドスペクトログラムなど)等を用いて、自分たちの音を可視化する。
- 記譜ソフトウェア(ノーターションソフト)や自動演奏ソフトウェア(シーケンサー)等を用いて音楽づくり・創作を行う。

#### 【表現・創作 発表や話し合い 協働での意見整理】

- デジタル・オーディオ・レコーダーやデジタルビデオカメラ、端末等で自分たちの演奏を記録し、それを聴いたり観たりして確認する。
- 端末を用いて、自分たちの思いや意図にふさわしい表現になっているかを考え、音楽表現を修正したり工夫したりしていく活動を行う。

#### <例>

- ・入力した音を聴きながら、何度も試したりやり直したりすることが容易にできる。
- ・読譜や記譜の能力、演奏の技能に関わらず、どのような音楽になるかを聴いて確かめることができる。

#### <例>

- ・実際の合奏や音楽づくり・創作の活動では、担当する楽器やパートを変えることは技能的に難しいケースも少なくないが、異なる楽器やパートを練習し直す手間や時間を省いたりするなど、思考、判断、表現をより活性化させることも期待できる。

- 【学習データの蓄積】
- 端末等へ振り返りの内容を記録する。
- 自己の学びの確認ができる。

## 教師の指導・支援

### 大型提示装置・教師用端末の活用

- 常時活動や既習曲の伴奏等の演奏に、端末や参考音源を活用する。

- 本時の学習に関連する音源・楽譜等を提示する。

- 着目させたい音楽を形づくっている要素等を共有化・焦点化できるように提示する。

- デジタル教科書や学習支援ソフトウェア等を使い、児童生徒の思考を共有できるようにする。

- 思考、判断し、表現していく過程でデジタル機器を有効に用いることで、指導の効率化を図り、児童生徒が工夫する時間を十分に確保していく。

#### <例>

- ・音楽づくり、創作や合奏などで楽器の組合せを工夫していく際に、ソフトウェア上で楽器の音色を変えて試しながら、どの組合せが合いそうかをシミュレーションする。(アプリを使った疑似体験やバーチャル演奏等を活用する。)
- この時、自分が入力した音や音楽をよく聴き返し、更に何度も違うやり方を試すなどし、よりよい表現を探求していくことが大切である。

- 個々のまとめの言葉を提示して紹介する。

# はばプラⅡ 音楽科「まとめる」過程の基本的な流れ

## 学びを深める指導・支援の重要ポイント

### 【指導のポイント】

### 【「めあて」の設定】

○題材のまとめに向けた活動や方法を示す。  
 <例>  
 「グループの作品を演奏し合っ、それぞれのよさや面白さを見付けよう。」 等

### 【知識及び技能を高めるために】

○思いや意図に合った表現をするために必要な知識及び技能を習得させていく。その際、機械的な知識の習得や技能の訓練とならないようにする。  
 ○「追求する」過程でも同様に、個々の思いや意図を関連付けながら、意図的・計画的に指導する。

### 【互いの表現の高まりを認め合う】

○表現の高まりを実感できるよう、場の設定や手立てを選択する。  
 <例>  
 ◆イメージや工夫点を発表し、演奏する。  
 ◆イメージや工夫点を意識して聴取る。  
 ◆表現のよさや面白さを伝え合う。  
 ◆発表後、実際に演奏し共有・共感する。 等

### 【振り返りについて】

○以下の例を組み合わせるなどして、題材全体の振り返りをさせる。  
 <例>  
 ◆音楽を形づくっている要素とその働きと関連付けさせる。  
 ◆生活や文化等と関連付けさせる。  
 ※生活や文化（中学校では社会、伝統）と関連付けた振り返りは題材による。  
 ◆題材での学びを、今後の学習にどのように生かし、活用していくかの視点で考えさせる。

## 基本的な流れ

### 1 学習に臨む雰囲気をつくる。

- 本時の学習内容とつながるよう、前時までの取組を紹介したり、実際に演奏させたりする。

### 2 本時のめあてをつかむ。

- 前時や題材を通しての学びを想起させ、子供たちの気付きを基に、題材全体を振り返ることができるめあてを設定する。

### 【めあて】

### 3 まとめの発表や演奏等を行い、表現の高まりを共有・共感する。

- 児童生徒が表したい思いや意図をもち、それを実現するための知識及び技能を習得することの必要性を実感させる。
- 互いの表現を発表し合ったり、全体で共有し合ったりして、音楽表現を深めさせる。

### 4 学習のまとめをし、題材の学びを振り返る。

- 児童生徒に題材の学びを想起させ、音楽を形づくっている要素とその働きの視点等でまとめる。

### 学習のまとめ

- 題材全体のまとめを基に、できるようになったこと、分かったこと、今後生かしていきたいことなど、題材全体の学びの振り返りをさせる。
- 子供たちに振り返りの内容を発表するよう促す。
- 題材での学びの実感を共有・共感できたことを称賛する。

### 題材全体の振り返り

## 個別最適な学びに関する学習活動

## 協働的な学びに関する学習活動

### 1人1台端末の活用

#### <例>

- 参考となる音源を紹介する。
- 楽譜の着目させたい部分をズーム機能で拡大、マーキングする。
- 情報が掲載されているウェブサイトの紹介する。
- 教科書会社の動画クリップを紹介する。
- 映像資料については、必要な部分のみを切り取り、繰り返して提示できるようにする

#### 【思考を深める学習 表現・製作】

- ICT機器を活用し、自分のイメージを生かした音楽をつくり上げる。

#### <例>

- 音楽づくり・創作分野において、ICT機器を活用し、様々な音素材や、リズム、旋律などを合わせ、どのような音楽が生まれるのか、自分のイメージを生かした音楽に近づいているかなどを実際の音で確認しながら試す。

#### 【一斉学習 個に応じた学習 思考を深める学習】

- デジタル・オーディオ・レコーダーやデジタルビデオカメラ、端末等で自分たちの演奏を記録し、それを聴いたり観たりして確認する。
- アプリやソフトウェア(サウンド・スペクトログラムなど)等を用いて、自分たちの音を可視化する。

#### 【思考を深める学習 協働での意見整理】

- ICT機器を活用し、自分たちの音楽表現を聴き返す。
- 工夫の過程での音楽表現を聴き比べてその変化を捉えたりしながら、客観的な根拠を基に、音楽表現についての思いや意図を更新する。
- 思いや意図を更新したり、技能面の課題に気付いたりする。

#### 【調査活動 思考を深める学習】

- 題材で扱った作品や作曲家について、事典などのウェブサイトを開覧し、その音楽の背景について確認する。  
 →児童生徒が音や音楽、音楽文化と豊かに関わっていくことにつながる。

#### 【学習データの蓄積】

- 端末等へ振り返りの内容を記録する。
- 録画や録音した自分たちの演奏や、作品を保存する。  
 →自己の学びの蓄積・確認ができる。

## 教師の指導・支援

### 大型提示装置・教師用端末の活用

- 常時活動や既習曲の伴奏等の演奏に、端末や参考音源を活用する。

- 本時の学習に関連する音源・楽譜等を提示する。

- 着目させたい音楽を形づくっている要素等を共有化・焦点化できるように提示する。

- <例>  
 ・自分たちの演奏を録画し、演奏のよさを味わったり、表現を工夫した部分を確かめたりする。  
 ・事前に撮りためた自分たちの演奏と、まとめの演奏を比較し、演奏のよさや変化に気付けるようにする。

- <例>  
 ・ワークシートを端末上で共有できるよう設定することで、自分たちの考えや感じたことをリアルタイムで書き込んだり、意見を共有したりする。

- 個々のまとめの言葉を提示して紹介する。